OMCNews 大阪ムービーサークル

ＯＭＣ事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/

平成２２年８月（2010年）No.５３６

ＯＭＣ第５０回記念映像フェスティバル
プログラム編成決まる
～アーカイブスから３Ｄ作品まで幅広い構成～

私たちにとって最初で最後になる記念すべき第５０回記念映像プログラムの編成が決まりました。今回はテレシネを含む４：３ＤＶ作品が３本、ワイド作品２本、ハイビジョン作品が大半の１２本、その他３Ｄ作品１本の計１８本という構成となっています。

５０回記念として、今年４０周年を迎えている日本万国博覧会に関係する作品「ツリーの最後」を合原会長が出品されます。かつて８ミリフィルム全盛時代に行われていた玄光社主催の「第 10 回全日本アマチュア映画コンクール」（1971）受賞作品で、会長のデビュー作品です。当時東京に続いて大阪での発表会は、今回の会場と同じく朝日生命ホールで立見もでるほどの満席でした。また同じアーカイブス作品ですが 1985 年に制作された上総修一郎氏の「とんぼ仲間」が再登場、今は貴重な作品内容となっています。特筆すべきは最近話題になっている「３Ｄ」作品がプログラムに組み込まれたことです。作者は、この道では世界の仲間と交流されている井上勝彦会員で当日はパソコンを会場にセットして上映する手筈になっています。このため入場時に観客の皆さん全員分の赤青のフィルターのついためがねを用意いたします。

作品の大半はハイビジョン映像で、１万ルーメンという明るさを誇る業務用プロジェクターを用いて上映いたしますので必ずやご来場の皆様のご期待に添ううものと確信しております。

■日時：平成２２年１０月１７日（日曜日）１２時半開場１３時開会。
■場所：大阪市営地下鉄御堂筋線、淀屋橋駅そばの朝日生命ホール。

８月例会のお知らせ

８月例会は２８日（第４土曜日）午後６時より、いつもの難波市民学習センター（ＪＲ難波ＯＣＡＴビル４階）にて行います。残暑厳しい時期ではありますが、場内は冷房が効いていて寒い位ですのでそのつもりでお出掛けください。楽しいひと時をどうぞ。

■ＯＭＣ第５０回記念映像フェスティバル
プログラム

第１部

１．ラマザン ｉｎ イスタンブール
HDV　6分　山本正夢
ラマダンをトルコではラマザンと言い、楽しみは日没後家族そろっての夕食。

２．北国脇往還 戦国桜街道
ワイド　11分　森口吉正
伊吹山麓から賤ケ岳に至る道、戦国のロマンにあふれる歴史街道はいま春爛漫。

３．トロッコの走る森林
HDV　6分　渡辺雄史
昔、木曾のヒノキを運んでいたトロッコが今も元気に走っている。

４．竹の精霊
HDV　6分　玉井　匂
北陸路でみた越前竹人形が、逝った姉のこころやさしい記憶を蘇らせる。

５．長浜曳山祭
HDV　18分　河合源七郎
子供歌舞伎を主題に太閤秀吉ゆかりの町・衆が一週間続けて繰り広げるカミとの宴

６．５８６５４
HDV　10分　山口幸代
多くのファンに惜しまれつつ引退して５年、みごと復活を遂げたハチロクの雄姿。

７．トンボ仲間
テレシネ　20分　上総修一郎
私の初期の映画作品です。最近、手軽に撮った映像と比べて見ました。

８．戦国武将集結
HDV　15分　吉岡貞夫
この上杉まつりは長く厳しい冬を乗り越え春の訪れを告げる雪国、米沢の風物詩。

９．モンブランを望みながら
HDV　9分　関　剛
エギュデュミディからイタリアへ。氷河上で40分の宙吊りゴンドラはスリル満点。

第２部

１０．イグアスの滝
HDV　10分　華岡　汪
絶えることなく凄まじい轟音と水煙をあげる、南米大陸の大瀑布を訪れて。

１１．御坊臨港線
HDV　7分　江村一郎
昭和３年に街と港をむすぶため、有志によって設立された日本一小さな鉄道。

１２．「わ」は力なり
HDV　10分　進藤信男
渓のサクラを守る会の皆さんの熱意に魅せられて撮影しました。

１３．伝統を受け継ぐ菅細工
ワイド　15分　岡本至弘
大阪市東成区深江に息づく菅笠（すげがさ）づくり、その行程を追ってみました

１４．空港周辺
HDV　10分　有村　博
飛行機をまじかで見たい一心で、伊丹空港の周辺を自転車で乗り回ってみた。

１５．神戸ルミナリエ２００９
３Ｄ　8分　井上勝彦
年末恒例の行事となっている神戸ルミナリエを立体ビデオとして記録しました。

１６．大井川鉄道のＳＬたち
HDV　15分　前田茂夫
「戦場に架ける橋」の泰面鉄道で使われたＣ５６４４は今も大井川鉄道で大活躍。

１７．古寺幽玄
HDV　13分　黒田敏彦
報道を遮断、静寂の夜に舞う御神楽は幽玄美の極致へ。神仏混合の儀式がいま再び

１８．ツリーの最後
テレシネ　13分　合原一夫
苦労して造り上げ華やかに開幕した万博スイス館、４０年目にして再び蘇る。

以上

■撮影会作品コンテストの結果

去る７月１７日午後開催された大井川鉄道とその周辺撮影会公開コンテストの結果は次の通りとなりました。出席者 15 名、出品１０作品でした。投票は１人３票で、一番良いと思われる作品から順に１，２，３位と作品の番号を投票しました。１位は３点、２位は２点、３位は１点にして得点の順位づけを行いました。

◎最優秀賞　大井川鉄道のＳＬたち
HDV　14分50秒　前田茂夫さん

◎優秀賞　大井川紀行
HDV　10分00秒　関　剛さん

◎秀作賞　大井川沿線の旅
HDV　10分00秒　宮崎紀代子さん

以上のような結果となりました。皆さん苦労してまとめられており、甲乙つけがたい作品が並びました。最優秀作品は秋の第50回記念映像フェスティバルで上映されます。

撮影会作品短評

合原会長

■作品上映

1．ＳＬ沿線（HDV）

進藤信男さん　　14分36秒

撮影場所を示す地図、木造の長い橋で有名な蓬莱橋、茶畠と茶の収穫風景、武家屋敷からＳＬがいる金谷の町へと続きます。新金谷駅ではＳＬが発車の準備中です。このあと島田の番所跡、人形等が出てきてから再び茶畠、そして田んぼの向こうに走るＳＬがあり、いろいろの角度から見たＳＬの姿を描いておられます。終着駅千頭から更にアプト式のトロッコの姿を撮っておられます。少し話が脇道にに入って気分が集中できない難点はありますがよく出来ていました。

2．大井川鉄道を行く（HDV）

江村一郎さん　　6分50秒

車窓から見た沿線風景、ＳＬが走る、それを撮影するカメラマン達、ダイナミックな映像から一転してネコ、茶畠、、茶摘み、つばめの巣、発電所跡などの静的画面へ。

ラストは電車の最後尾から去り行く線路で終わります。静と動、そしてうまくインサートカットを活かした江村さんらしい作品。

3．大井川沿線の旅（HDV）

宮崎紀代子さん　　10分00秒

茶畠、大井川、ＳＬや電車の走る風景、ナレーションで「大井川沿線を歩いてみました」と始まります。なるほどこういう意図でのまとめ方なら、いろんなカットが出てきても見る人にすーと入って来るものがあります。ラストはＳＬと茶畠で「もう一度訪ねてみたい旅でした」と締めくくられました。秀作賞に輝いたいい作品でした。

4．大井川に生きる（HDV）

河合源七郎さん　　11分19秒

広重の絵や大井川関連のダムから大井川鉄道の歴史と課題など、河合氏ならではの視点からまとめられています。よく調べられているなと感心して見せて頂きました。

5．大井川沿い（HDV）

森田光春さん　　9分20秒

今回は４班に分かれての行動でしたが作者は関班に同行しての撮影だった由。茶畠、木造の蓬莱橋、金谷の石だたみ、資料館での大井川の川越えにまつわる話などが語られます。最後は車窓から眺めた沿線風景でした。楽しく見せていただきました。

6．川辺を巡る－大井川－（HDV）

有村 博さん　　11分25秒

蓬莱橋は凡そ900ｍもありギネスブックものだそうです。茶畠、茶摘風景、島田の資料館、宿泊地の温泉のあるコテージもちろんＳＬもありアプト式ありで盛りだくさんのカットで、あの辺りものんびり旅をするにはいいところだなと思いました。

7．大井川鉄道のＳＬたち（HDV）

前田茂夫さん　　14分50秒

さすが圧倒的多数で最優秀作品に選ばれた作品です。「戦場に架ける橋」で知られる泰面鉄道で使われたＳＬが今、大井川鉄道で活躍している話には惹きつけられるものがありました。なお、この作品は８月例会で改めて上映が予定されています。

8．新緑の大井川を遡る（2Dバージョン）

井上勝彦さん　　9分06秒

３Ｄで撮影されたものを２Ｄバージョンで持参されました。グーグルの立体地図から場所の説明は氏お得意の分野で一寸マネの出来ない技術です。関班に同行だった由で木造の大橋、大井川川越えの話、茶畠、手摘み風景等が続きます。３Ｄの方も見てみたいと思いました。

9．大井川紀行（HDV）

関　剛さん　　10分00秒

同じ様な場所のカットですが、やはり関作品だなーと思わせる撮影と編集で惹きつけられて拝見しました。優秀賞受賞。

１０．大井川SLと茶畠（HDV）

錦　務さん　　9分45秒

茶畠でのインタービューを入れたり、日本一短いトンネル、関西の私鉄、ＳＬなど盛りだくさんでよくまとまっていました。

７月例会のレポート

7月例会は24日（土）午後6時より難波市民学習センターにて行いました。暑い盛りの日でしたが会場は冷房が効いていて寒いぐらいでした。

司会は吉岡氏、書記、関氏、上映担当は江村、河合の両氏、受付兼照明係は宮崎、進藤の両氏によって会を進行しました。

■出席者：有村、江村、江藤、岡本、上総、蟹江、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、錦、華岡、藤原、前田、増池、宮井、宮崎、森口、森下、森田、山本、吉岡、渡辺の25氏（敬称略）と作品15本。

■上映作品

1．夏・美瑛（DV）

合原一夫さん　　7：15

すでに何度か旅をされていますが夏の美瑛はこれが初めてだそうです。じゃがいもの花というと地味で普段はあまり目立ちませんが、この丘の見渡す限りに咲くじゃがいも畑は壮観です。やっぱり北海道、美瑛ならではの風景です。作者のナレーションもただただ感嘆詞であふれていました。青い麦畑も、ひまわりも、それにラベンダーも。どこまでも続くなだらかなパッチワークをゆっくり眺めていると、とてつもない空の広さに気づきます。そして、北海道なんだなーと。

2．統を受け継ぐ菅細工（W）

岡本至弘さん　　14：53

祖母が真言宗の講に入っていたので子供の頃からなじみのすげ笠。たまにお遍路さんと出会っても装束のひとつとして何とも思わなかったのですが、じつは緻密な手工芸で、しかも深江という割りと身近な場所で作られていたとは知りませんでした。昔、大阪東部の河内平野は一面の湿地帯で、すげなどはどこにでも自生していたのですが、人口が増すにつれて宅地化が進み、いまは細工用にと人の手で育てているのだそうです。一見「出来るまで」の構成ですが、すげ笠の工程は部分的なもので、むしろ笠を編む人、すげの生産に携わっている人たちとの会話に比重を置いている感じです。こまめによく撮っておられるのですが、どこか掴み所が不明のまま終ってしまったような気がしました。

3．うねめ祭　古都幻想（W）

森口吉正さん　　8：10

中秋の名月の夜、奈良の猿沢池で行なわれる古式ゆかしい行事です。過去に拝見した同じ題材の作品は夜のシーンだけでしたから、まだ明るい時間の行列の映像を見るのは私は初めてです。しかし周囲の雑音がひどく、とくにガードマンらしき声に気分を削がれてしまいました。作者のナレーションはたいへん判りやすく、聴かせるための言葉選びをされているといつも感心しているのですが、この作品は現地音がそれを遮ってしまいました。いつもの名水シリーズでは周囲が静かですから作者もほとんど気にされてないのかも知れません。つまり現地音が作品に与える影響についての処理にあまり慣れておられないのだと思います。それと最近はケイタイで写真を撮る人が多くなりました。それこそ猫も杓子もです。そのフラッシュがビデオにとっては最大の敵です。夜間のこのような幻想的行事はフラッシュ禁止にしてほしいものです。まあ無理でしょうね。

4．スミランでダイビング（W）

森田光春さん　　9：40

タイのリゾート地でしょうか、数人のお仲間と海中散歩。いたるところに大きな珊瑚があるきれいな海。色とりどりの魚がいて種類も豊富です。ちょっと不気味なうつぼも隠れていました。船上で食事のあと陸にあがってしばし休憩。その後再びダイビング。楽しい海のバカンスを満喫されたご様子でした。作者ご本人は画面に出ていないのか、出ていても潜水具を着用していてわからないのか。少し残念でした。

5．ベルギー花博（HDV）

蟹江利一さん　　8；17

ベルギーのケントという小都市で、5年に一度9日間だけ開かれる博覧会だそうです。内外から300を越える園芸事業者が参加する会場ですが、何とそのほとんどが屋内展示です。といっても大木あり、噴水あり、池もある大規模なもの。4万5千平方メートルの広大な敷地に8つの建物と全長2キロの展示コースを設け、そこに植えられた50万株の花々を職人たちの手で、さまざまな形にデコレートして人々の目を楽しませています。その中に漢字とかなの

電飾や和風の庭らしい場所もありました。日本からも出展しているのでしょうか。あまりの広さに全部を見られず残念。とは作者の弁でした。

6．大井川鉄道（ＨＤＶ）

紙本　勝さん　　１４：５０

撮影会作品ですが、コンテストの日を間違えたとかで例会に持参されました。金谷駅の俯瞰で始まり、ＳＬ列車の発車風景、新金谷車両基地の模様。そして南海、京阪、近鉄など、関西私鉄の旧車両が大井川鉄道で立派に活躍している様子や、ＳＬ列車が果している役割とその効果なども紹介。蛇行する大井川の流れと沿線の茶摘み風景を交えながら終点の千頭までを丹念に追っておられます。撮影会に参加された中でただ一人、この作者だけが大井川鉄道の運行表どおりの素直な編集をされていました。たいへん分かりやすい内容で、作者の几帳面さがうかがえます。

7．ともに活きる（ＨＤＶ）

進藤信男さん　　１２：５８

その昔、足に傷を負った一羽のコウノトリが田圃に降りてきた。幾日か経つとまた空を飛びまわれるまでに回復。その田圃には温泉が湧いていた。それがいまの城崎温泉。というオープニングではじまります。以前は「田圃が荒らされる」と農家に嫌われるほど多くのコウノトリが棲息していたそうです。しかし人間の自然破壊がもとで次第に数を減らし、捕獲して人工飼育をしたが時すでに遅く 1986 年に野性は絶滅しました。ただ時折飛来して飛び去るのはいたそうです。2002 年８月５日に舞い降りたコウノトリは４年半もこの辺りを餌場にして棲みつき、ハチゴロウと名付けられました。改めて調べてみると、そこはコウノトリの餌場として最適の湿地帯だったのです。そこで人工飼育が本格化。昨年までに約１００羽が放鳥されました。農家も農薬使用を控え、無農薬の銘柄米を作付けするようになり、コウノトリも地域住民もともに活きる環境が育ったのです。これだけの大作にまとめるには、かなりの回数で取材に訪れているはず。その努力に頭が下がります

8．予祝の海（ＨＤＶ）

河合源七郎さん　　７：４５

予祝とはまえ祝いのことですが、それと作品内容の抽象的思考について作者から説明がありました。冬の日本海でしょうか、荒れる海です。波が岩に砕け散り、真っ白な飛沫が打ち上がります。その背後の空は、そこだけ夜を思わせるように真っ暗。ちょっと異様な光景です。暗い荒海にぽっかりと陽の射すところがあり、白い波涛が輝いていました。そんな荒々しい海の情景だけで作品は終りますが、「予祝」とは、いまは荒れているが穏やかな海が必ず還ってくる。つまり、例えば今は低迷する世の中だが、いつかは良くなる。下降のあとは上昇がある。突き詰めれば物事は陰と陽で成り立っている。という意味だと私は理解しました。他の皆さんはどう受け取ったでしょうか。私もときどき抽象とか心象作品を発表しますが、内容を観客に説明するのは好みません。人それぞれの見方で肯定もあれば批判もある。観客に思考を促す作品なら当然です。ある人が岡本太郎に万博の太陽の塔の意味を尋ねたら、意味なんか無いと言ったそうです。

9．農作業見学（ＨＤＶ）

有村　博さん　　９：１５

冒頭、最貧国ネパールの穫り入れ。家族総出で動力は牛か人の手でした。昔は日本のどこででも見られた風景です。いまは若者は都会に出て田圃を守るのは爺ちゃん婆ちゃんや年配者たち。それも夫婦２人だけのところも多く、当世の米作りは機械に頼るしかないのでしょう。高校生が集団で手植えしていましたが、これも社会勉強だけで終ってしまうと思います。田圃を均すのはトラクター、苗は田植え機、そして稲刈はコンバインが活躍していましたが、なんと刈り取りながらその場で玄米にしてしまう早わざ。鎌で刈り、杭に干し、脱穀機を踏んで籾にする重労働も今は昔。農家もすっかり様変わりしました。しかし食料不足なのに減反政策はいまも続き荒れ放題の農地が各所に。いったい日本の農政はどうなっていくのでしょうね。

10．阿蘇・杵島岳へ（ＨＤＶ）

宮井　健さん　　９：４４

トロッコ列車に乗る２泊３日の旅行が１

万円とは安い。まあ２泊とも船の中ですから観光は実質１日のみですね。早朝別府に着いてツアーバスで阿蘇の草千里へ。バスを降りたらハイキングに備えてウオーミングアップで張り切ります。ここらは面白おかしく持ち前のユーモアを発揮します。目指す杵島岳の標高は 1321 メートル。草千里がおよそ 1150 メートルですからその差 170 メートルほど。ツアー客の先頭は遥か彼方を登っていますが作者ご夫婦はベッタ。用心のために添乗員が後をついています。その添乗員に自分の登る姿をちゃっかり撮影させました。下山して、まだ余力はあるぞと走り回る様子も滑稽です。旧高森線のトロッコ列車に乗ったのですがバッテリー切れでＥＮＤ。ところで作者は日頃から奥さんのことを幸ちゃんと呼んでおられるのですか？。

11. 沙の舞（ＨＤＶ）

山本正夢さん　　９：４０

どこでどういう風に旅のお仲間になれたのか、フランス人の男女とインド人それに作者。この奇妙なとりあわの４人がガイド２人引き連れてモロッコの砂漠を旅します。ラクダの背に揺られながらどこかの街中から砂漠へ。メルズーガ砂丘。といわれてもさっぱりですが、砂漠ホテルと示された建物とその付近以外はすべて砂の大地。風が強いのか目だけ出して頭や顔を布で覆います。砂丘の稜線から雲のように砂が飛び、足元にはまた新たな風紋が描かれていきます。いつも貧乏旅行に撤している作者、オアシス近くでテントを張り、食事はガイドがつくりました。黒い砂漠の彼方はアルジェリアだそうです。まだ続きがあるのでしょうね。楽しみにしています。なにしろこういう映像を見せてもらえるのはこの作者だけですから。

12. 余部５０年（ＨＤＶ）

江村一郎さん　　６：２０

かつては鉄橋しかなかった余部に、地元の強い要望で駅が造られて５０年。その式典が催されました。その当時、子供たちが重い石を海岸から運んで建設に協力した故事に習い、余部小学校の生徒たちがもっこを担いでそれを再現。また、現在の余部のさまざまを絵にしてタイムカプセルに入れ、小学校の校庭に埋めました。これは昨年４月の記録ですが今年８月、架け換えたコンクリート橋にいよいよ線路がつながります。もちろんこれも撮影に行かれるのでしょうね。

13. 白ワイン農家（ＨＤＶ）

江藤洋司さん　　４：０８

フランス・ボルドーの農家だそうです。主人に紹介されたのはフルートを持ったドイツ人の男性。撮り損なったのか演奏は最後の一瞬だけでした。ほかにオーストラリアからの学生、ドイツの女子大生。その人たちとワインを酌み交わし、ブルーベリーケーキをカットする場面がありました。題名から察するに、作者がこの農家で何日間か農作業を手伝って、帰国間際のお別れ会だったと思います。バス停まで車で送ってくれた主人が作者に礼を述べていましたから、かなりの仕事を手伝ったのではないでしょうか。しかしワイン農家なのに葡萄畑がまったく出てきませんでした。作者はときどきアポなしで外国の民家を訪れています。言葉は？と訊ねたことがありますが判らないという返事。すごい度胸に驚いたのを憶えています。

14. 霧の竹田城（ＨＤＶ）

前田茂夫さん　　６：００

幻想的風景。一幅の絵を見るようで言葉もでません。朝はやく登られたのでしょうか、光線状態が素晴らしいですね。この城跡に行くだけでもたいへんな労力ですが、それを同じ高さから撮るために向かいの山に登るのもたいへんです。一回ではこのような映像は撮れませんから何度も通われたのだと思います。ＭＩＤＩの曲もこの情景にぴったりでした。霧が晴れて下界の様子が分かると早速出ました赤い電車。題名からは、ちょっと余分かなという気もしますが。

15. 駿河川根路風景とＳＬの詩（参考出品）

（ＨＤＶ）　竹島　猛さん　１４：３０

撮影会でたいへんお世話になった竹島さんの作品です。さすが地元だけあって撮影ポイントを心得ておられます。この中からカットを頂戴した人も何人もいたはず。改めてお礼申し上げます。